

# 中区防災計画

第3次修正版

横浜市中区役所

平成26年6月13日



## はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」により、私たちは甚大な被害を目の当たりにするとともに、地震という自然災害を未然に防ぐということは不可能であることが明らかになりました。

この大地震の教訓から津波対策、帰宅困難者対策及び要援護者対策の重要性がクローズアップされましたので、中区におきましては平成 24 年 6 月に中区防災計画第 1 次修正を行いました。

本市では平成 25 年 3 月に「減災」「人命最優先の対策の強化」を重点として、横浜市防災計画「震災対策編」の抜本的な修正を行いました。

この修正に伴い、中区におきましても中区防災計画を同月に第 2 次修正したところです。その後、12 月に内閣府が今後 30 年以内に 70% の確率で地震が発生するとの予測に基づく「首都直下地震被害想定」を公表し、今後の防災・減災対策については、地震火災対策についても重点課題として取り組む必要性が明らかになりました。

そこで、今回の修正では、これまでの「自助」「共助」の推進に加え、地震火災対策を盛り込み、区の活動内容に特化してより見やすいものとするとともに、構成を本市防災計画との整合性を図り見比べやすいものとししました。

最後に、当修正作業を進めるにあたり、貴重な御意見をいただきました区内の防災関係団体や防災関係機関の皆様へ感謝申し上げますとともに、日頃から地域防災の担い手として御協力いただいている区民の皆様へ御礼申し上げます。



平成 26 年 6 月

中区長 三上 章彦

## よこはま地震防災市民憲章 ～ 私たちの命は私たちで守る ～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。私たち横浜市民はそれぞれが持つ市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やって来る。今日かもしれないし、明日かもしれない。  
だから、**私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。**

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。  
だから、**私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。**

不安の中の避難生活。けれどみんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。  
だから、**私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。**

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。  
だから、**私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。**

### よこはま地震防災市民憲章〔行動指針〕

#### (備え)

- 1 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしておきます。
- 2 地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます。
- 3 少なくとも3日分の飲料水、食料、トイレパックを備蓄し、消火器を設置しておきます。
- 4 家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ決めておきます。
- 5 いっつき避難場所、地域防災拠点や広域避難場所、津波からの避難場所を確認しておきます。
- 6 家族ぐるみ、会社ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。

#### (発災直後)

- 1 強い揺れを感じたら、命を守るためにその場に合った身の安全を図ります。
- 2 怖いのは火事、揺れが収まったら速やかに火の始末を行います。
- 3 近所のお年寄りや障害者の安否を確認し、余震に気をつけながら安全な場所へ移動します。
- 4 避難する時は、ガスの元栓と電気のブレーカーを落とし、備蓄食料と常用薬を持って行きます。
- 5 断片的な情報しかない中でも、噂やデマに惑わされないよう常に冷静を保ちます。
- 6 強い揺れや長い揺れを感じたら、最悪の津波を想定し、ためらわず大声で周囲に知らせながら高いところへ避難します。

#### (避難生活)

- 1 地域防災拠点ではみんなが被災者。自分にできることを見つけて拠点運営に協力します。
- 2 合言葉は「お互いさま」。拠点に集まる一人ひとりの人権に配慮した拠点運営を行います。
- 3 避難者の半数は女性。積極的に拠点運営に参画し、女性の視点を生かします。
- 4 子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います。
- 5 消防団員も拠点運営委員も同じ被災者。まずは感謝の言葉を伝えます。
- 6 「助けて」と言える勇気と、「助けて」に耳を傾けるやさしさを持ちます。

#### (自助・共助の推進)

- 1 あいさつを手始めに、いざという時に隣近所で助け合える関係をつくります。
- 2 地域で、隣近所で、家庭で防災・減災を学び合います。
- 3 子どもたちに、大地震から身を守るための知恵と技術、そして助け合うことの大切さを教えます。
- 4 横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。
- 5 私たち横浜市民は、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。